

令和4年度 福井県普及指導活動外部評価結果

1 外部評価の目的

近年、農業人材の減少や自然災害の多発、また不透明な需給状況等、農業を取り巻く情勢は依然厳しいが、普及組織では、すべての農業者がやりがいを実感できる農業・農村の実現に向け、より一層、普及指導活動を効果的かつ効率的に進めていく必要がある。

このため、普及指導活動に対し、外部の有識者や専門家等による評価を行い、今後の普及活動の取組みに生かす。

2 実施日程・場所・内容

日時 令和5年3月10日(金) 9:30~12:00

場所 福井県農業試験場 大会議室(福井市寮町辺線 52-21)

内容 農業革新支援専門員としての高度営農支援課の活動を評価

3 評価委員

氏名(敬称略)	所属・職名等
上田 輝司	福井県指導農業士会 会長
木下 良弘	福井県農業協同組合中央会農政生活部 次長
神保 信幸	全国農業改良普及職員協議会 事務局長
福田 浩一	株式会社日本農業サポート研究所 代表取締役
堀田 学	福井県立大学経済学部教授
増永 ひとみ	日本農業新聞 福井通信部

4 評価対象事務所および課題

	事務所名	課題名
1	農業試験場高度営農支援課	データ駆動型農業の実践体制づくり
2	農業試験場高度営農支援課	普及指導員の指導力向上

5 評価の内容

- ①課題の選定、ねらい
- ②普及指導活動の内容
- ③普及指導活動の成果
- ④当該課題に対する総合評価

6 各課題に対する意見・提言・改善方向

課題: 活動全体

【評価】

- ・地域普及指導センターへの助言を2人体制で取り組むことは評価できる。
- ・全体のバランスが取れている。

【提言】

- ・農家は減少しており、個々のテーマを掘り下げた方が成果は出しやすい。
- ・普及課題に対する人員バランスがうまく構築できると良い。
- ・食料・農業・農村基本計画の課題解決に向け、JAと連携を進める。
- ・今後の食料安全保障、有機農業推進など新たな課題に対し、牽引して欲しい。
- ・現状把握、課題設定、評価の数値化を行って欲しい。
- ・今後、食料安全保障においては、北陸固有の問題(冬季の販路、供給体制)、有機農業の拡大では、点在する農家をつなぎ、組織化する指導が必要。
- ・新幹線開業に向け、いちほまれやソバ、若狭牛等の品質向上や生産拡大等目標達成できると良い。

【改善方向】

- ・個別の課題において、対象の集約化など、活動の深化や評価の数値化を図る。
- ・食料安全保障、有機農業推進など新たな課題に対し、行政や研究、各事務所、JA等との連携を強化し、効果的な普及が実現できるよう活動する。

課題: データ駆動型農業の実践体制づくり

【評価点】A: 2人、B: 3人、C: 1人

- ・普及指導員をチーム化したことは評価できる。
- ・膨大なデータから仮説を立て、対策を示している。予防のメリットは大きい。

【提言】

- ・全自動のようなシステムを提案してはどうか。
- ・農家を含めた意見交換、情報連携ができる体制構築が必要。
- ・イチゴやキュウリ等他品目についても共有できると良い。
- ・農業者の主体性が発揮できなかったことは残念である。
- ・農業者の実態を把握し、経営改善に寄与できるような活動への立て直しが必要。
- ・課題の分析が不十分である。先進事例に学ぶ必要あり。
- ・革新がICTのエキスパートになるべきである。活動成果は不十分である。

- ・活動体制や運営に対しても見直すべきである。
- ・データ分析段階から生産者を巻き込む工夫が必要。生産者自らがデータ収集、分析、解決案を導き出すことで、そのプロセスを学ぶための指導であるべき。
- ・生産力が向上した農家がどう活用したのか具体例をわかりやすく伝えると良い。
- ・里親農家の環境をモニタリングできれば、技術向上につながる。

【改善方向】

- ・意欲の高い生産者とその担当普及員に対する活動に集約するとともに、生産者の自らの活動へ誘導する。
- ・先進地の情報を収集することで、革新支援専門員の技術向上を図る。
- ・事例を取りまとめるとともに、経営評価を行い、一層の普及を図る。

課題: 普及指導員の指導力向上

【評価点】A: 3人、B: 2.5人、C: 0.5人

- ・人材育成は重要である。
- ・資格試験合格率向上では、成果があったと考えられる。

【提言】

- ・OJTにおいて、トレーナーの課題解決研修も必要である。
- ・普及指導員の資質には①高度な知識・技術を習得できたか、②担当地域の実態を把握しているか、③農家に寄り添う姿勢が取れているか、④生産だけでなく、農村生活改善にも意識が向いているか等、様々あるため、チェック項目として検討して欲しい。
- ・効果が数値化されていないため、評価できない。研修時間の変化が不明。
- ・OJTについて、効果の評価のためのフォーマットを作成する必要あり。
- ・農家に対するアンケートなど、農家に成長度を評価してもらう仕組みがあると良い。

【改善方向】

- ・研修の評価方法を新しく定め、毎年度、研修の評価を行う。
- ・OJTの効果チェック表において、農村生活への理解や農家からの評価項目を設ける。

7 結果の活用

評価委員からの提言および改善方向について、次年度以降の普及指導計画立案に活用し、普及活動に反映させる。